

開催報告書

第1回メディア制作者と医療者がつながる座談会「貧しさと健康」

2017年1月17日 東京

共催： メディアと医療をつなぐ会

東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学

メディカルジャーナリズム勉強会

協力： 一般社団法人 日本放送作家協会



本座談会は、健康格差について国民全体の問題として、より多くの人に知ってもらい、解決につなぐために、メディアがメディアと医療はどのようにコラボできるのか、をテーマにトークとディスカッションを行った。



東京大学大学院医学系研究科保健社会行動学分野、健康教育・社会学分野主任の近藤尚己准教授は、所得格差や景気動

向、地域の間人関係など社会経済的な環境要因がいかにか健康に影響を与えているかを紹介。さらに、健康に関心がなくても無意識に健康に関する情報が得られるような仕掛けが必要なのは、とHealthNudgeを紹介。Nudge（ナッジ）とは注意を引いたり、合図するために肘で人を軽く突くというのが元の意味。ストーリー、想像力、影響力、エンタメ力でもって、リアルで面白く、社会弱者に共感できるドラマやドキュメンタリーの制作や公衆衛生プロフェッショナルとのコラボレーションが望まれると締めくくった。



次に、脚本家の浜田秀哉氏が講演。医療ドラマの脚本を書くにあたり、正確な医療・健康情報にアクセスするのは必須であり、膨大な量の医学書

籍や資料を読む。表現にはいつも最大限の注意を払っており、視聴者がひとりでも傷つくことがあればそれは良い脚本とは言えない、と言及した。



つづくパネルディスカッション（左から、市川氏、浜田氏、近藤氏、河村氏）では、河村洋子准教授（熊本大学）も加わり、市川衛氏（医療番組制作ディレクター）のファシリテーションで、事前に参加者から頂いた質問についてメディア制作者、医療者の立場で話し合った。



次回は4月に開催予定。

Reported by 加藤美生（東京大学）

Published by メディアと医療をつなぐ会事務局

2017.2